第 44 回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長　坂口　大洋

1．応募作品

・小規模建築物部門　　8 作品
・一般建築物部門　　20 作品
・その他の建築物部門　1 作品
　計　　29 作品

2.選考経過

（1）事前打ち合わせ会議　　2023 年 9 月 25 日（月）10：30～11：09
於　オンライン（Zoom）

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

（2）東北建築作品発表会　　2023 年 10 月 7 日（土）9：50～15：40
於　オンライン（Zoom）

第 33 回東北建築作品発表会において応募された作品の発表が行われた。アフターコロナであるが、東北地方に建設された建築物を全国の人に知っていただくことを目的にオンラインで開催した。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

（3）第 1 次審査会　　2023 年 10 月 7 日（土）16：00～16：50
於　オンライン（Zoom）

東北建築作品発表会終了後、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第 1 次審査を行った。小規模建築物部門と一般建築物部門を別々に選考せず、まとめて投票することになった。

全作品の中から一人 10 票以内で投票することとなり、各委員の投票および発表内容を総合的に考慮した結果、小規模建築物部門 4 作品、一般建築物部門 9 作品、合計 13 作品を第 1 次審査通過とした。

次に、現地審査は 1 作品につき 2 名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された 13 作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、施設管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行うこととした。

なお、1 次審査の落選者へは 200 字程度の講評を選考委員分担で作成し、選考委員会として送付することを確認した。

（4）現地審査

現地審査については 11 月と 12 月に選考委員で分担して実施した。

（5）第 2 次審査会　　2024 年 2 月 9 日（金）16:30～19:30
於　日本建築学会東北支部会議室

まず、坂口委員長より全体の進め方と評価ポイントの確認があった。その後、1 作品ずつ現地審査担当委員からパワーポイントにより報告した後、ほかに現地を確認した担当委員からも印象や評価すべき点を報告した。報告を受けて、それぞれの作品ごとに、審査の評価ポイント等についての討議を参加の委員全員で行った。すべての作品の紹介と討議が終わった後に、出席の全委員による投票を行った。投票に当たっては、現地審査作品数が昨年度と同数であることを踏まえ，昨年度と同じ投票数を決定した。

投票の結果、作品賞は一般建築物部門から 2 作品、小規模建築物部門から 1 作品、合計 3 作品が選定された。特別賞は一般建築物部門から 1 作品、小規模部門から 1 作品、合計 2 作品が選定された。

(6) 総評

本年度は、小規模建築部門、一般建築部門を通じて用途及び様々なアプローチのある作品に応募いただきました。選考を経て選定された作品賞 3 点は、減築リノベーションによる住宅の持続性を提示した「盛岡の家」CLT と集成材によるダイナミックな空間を創出した「SYNEGIC office」、縦ログ構法を駆使した地域の豊かな情報拠点の計画である「きとね」、特別賞の 2 作品も地域との対話を重ねた保育所づくりと、移設と既存住宅の形式を踏まえた再構築したオフィスでした。作品の評価軸は多様ですが、本年度の受賞作に共通するのは、地域や環境のコンテクストの丁寧な読み取りとそれらを具体化するための手法、特に木造を中心とする実践的な技術力だったといえます。これらの受賞作が今後の東北の建築文化の一つの契機となればと思います。

(7) 選考結果

「作品賞」3 作品

小規模建築物部門

◆盛岡の家

【所 在 地】岩手県盛岡市
【設計監理】東京都市大学　中川 純
池原靖史建築設計事務所　池原 靖史
早稲田大学　菅野 颯馬
構造設計／滋賀県立大学　永井 拓生
設備設計／東京都市大学　中川 純
早稲田大学　菅野 颯馬
【施　　工】ウチノ建設株式会社　打野 秋男　上野建築　上野 一男　丸山建設　六本木 昭浩

一般建築物部門

◆SYNEGIC office

【施　　主】シネジック株式会社
【所 在 地】宮城県富谷市成田1-5-9
【設　　計】建築／UENOA architects　長谷川欣則 堀越ふみ江
構造／ ホルツストラ　稲山正弘 ＋ KMC　蒲池健
設備 ／機械：ジーエヌ設備計画 五木田正和
電気：タクトコンフォート 田中慎一
外構／エスエフジー・ランドスケープアーキテクツ　大野暁彦　金睿麟
【施　　工】建築／八光建設　柳沼幸代　山村裕之　橋本正博
木工事／オノツカ　小野塚真規　阿部智史

一般建築物部門

◆みなみあいづ森と木の情報・活動ステーション きとね

【施　　主】南会津町長　渡部正義
【所 在 地】福島県南会津郡南会津町田島字宮本東 33-1
【設　　計】福島県建築設計協同組合
設計・監理／はりゅうウッドスタジオ（滑田崇志・斉藤光）

構造／AUM（濱尾博文・阿部光輝）
設備／エム設備設計事務所（齋藤義彦・岡裕子）遠山設備設計（遠山邦夫）
照明／スパンコール（村角千亜希・ニノ倉絵里）
家具基本構想／藤江アトリエ（藤江和子・野崎みどり）
ランドスケープ基本構想/STEP(徳永哲)
【施　　工】建築／芳賀沼製作
空調・衛生／光和設備工業所　南会津支店
電気／阿久津電気工事
家具／みなみあいづ森林ネットワーク
木材支給／みなみあいづ森林ネットワーク

「特別賞」　２作品

小規模建築物部門

◆ベコハウス

【施　　主】吉川彰布
【所 在 地】宮城県仙台市太白区東郡山1‐22‐2
【設計監理】吉川彰布＋松本純一郎設計事務所
基本設計　吉川彰布
実施設計　松本純一郎設計事務所　松本純一郎　小原麻未　久慈七実
構造／清水構造計画　清水靖真　近藤幸輝
設備／（株）智建築設備設計事務所　佐々木勉
【施　　工】建築／（株）おおほり建設　（有）アトリエ海（施工協力）
設備／（株）冷暖
電気／（株）エディソン

一般建築物部門

◆女川町立しおかぜ保育所

【施　　主】女川町長　須田善明
【所 在 地】宮城県牡鹿郡女川町浜字大原602-3
【設計監理】建築／関・空間設計・石森建築設計事務所 共同体
関・空間設計　総括　渡邉宏　担当　岩根敦　佐々木大
石森建築設計事務所　担当　石森史寛　齋藤秀（元所員）
構造／関・空間設計　担当　大村勇　RGB STRUCTURE　担当　高田雅之
電気／TAKAHASI ELECTRIC PLANNING　担当　髙橋友紀
機械／E.I.S 設備計画　担当　髙橋和弘
外構／環境造景研究所　担当　及川純一
【施　　工】 建築・電気・機械／大和ハウス工業（株）仙台支店

（8）講評

作品賞

【盛岡の家】

地方都市に立地する築 80 年を超える老朽化した戸建て住宅を次世代に住み継ぐためのリノベーションである。主なアプローチは、外皮減築、断熱補強、耐震補強の３つ。減築は室内への日射の確保するともに、軒下空間に中間領域を創出することで外部空間とのながりを豊かにしている。外壁の高断熱化は、吹き抜け句を含む開放的な室内の平面計画を実現している。床レベルを 450 ㎜下げることで、外部への眺望の確保と室内空間に広がりをもたらしている。耐震補強もジャッキアップをせずに、基礎の部分補強を行う構法を採用し束基礎から布基礎に変更している。また、サッシなどの部材についても腐食した部材を中心に最小限の交換にとどめている。それぞれの手法に共通しているのは、現状の建物の価値を丁寧に読み取りながら、次なるリノベーションを視野に入れた計画とするために、部材、接合方法、設備などを汎用性の高い方法を組み合わせることで、住まいとしての持続性を創り出している。今後の住宅の持続性を考える上での実践的な改修方法として、優れた批評性を提示している。以上により東北建築作品賞に推薦いたします。

【SYNEGIC office】

木造用ビスメーカーのシネジックの新社屋計画です。配置計画、外構計画、平面計画、構造計画と様々な工夫をこらした作品といえます。配置・外構計画では、建物を敷地の真中に配置し街から近くに感じられる工夫や、在来種のタネを拾い育て植樹するなど、街の方々に親近感が得られるよう、様々な工夫がなされています。又、平面計画では、十字の事務エリアと四隅の実験室、ラウンジなどが吹抜を介し事務室とつながり、活発な対話や連帯感が生まれる計画となっています。構造計画では、入手しやすい 105 幅の住宅用集成材を用いた平面トラスを傾斜しながら並べ、トラスを三角形の CLT パネルで緊結する形で 18m の大スパンの無柱空間をつくりあげています。又、接合部を CLT で処理し、ビスのみの留め付けの工夫や、架構が手に触れられる距離からだんだん高くなる工夫など、様々な検討がなされた意匠性の高い、インパクトのある架構といえます。架構に目が行きがちな建物ですが、その土地の風土を生かした外構計画、刺激し合う平面計画など、様々な配慮がされた優れた建築だと思います。以上により東北建築作品賞にふさわしいと高く評価されました。

【みなみあいづ森と木の情報・活動ステーション きとね】

「みなみあいづ森と木の情報・活動ステーション　きとね」は、林業を核とした地域振興に取り組んできた南会津町が整備した、林産業に関する事業者の連携、情報発信、教育・研修、展示・販売などの機能をもつ交流拠点施設です。冬の 2m の積雪に耐える屋根を地域でできるシステムで造るという考えのもと、機能的空間の入った縦ログ構法の箱と、その上に載せられる南北に貫く 10 本の重ね梁により、広々とした多目的な空間が作られています。また、木のおもちゃなどを有する木育スペースや誰でも使える大小様々な木製テーブルなどは、森林・林業・木材を身近なものとして実感でき、幅広い世代が集う憩いの場を提供しています。これまでの木造大型建築にとらわれない方法により、町有材の伐採から施工までほぼ全ての工程を町内で完結さたこの建物は、地産地消と脱炭素化・カーボンニュートラルに貢献し、町産材の価値を高める建築となっています。以上により、東北建築賞作品賞にふさわしいと高く評価されました。

特別賞

【ベコハウス】

災害復興支援を行う団体の事務所である本作品は、2 つの建築物の移築を含む 3 つの建築物の複合体です。かつて東北建築賞作品賞を受賞した「都市計画の家Ⅱ」は三角形の平面を有し、その 1 面が開放的な実験住宅でしたが、オーナーで設計者の芳賀沼整氏が逝去したことに伴い、移転を余儀なくされました。芳賀沼氏の代名詞にもなった縦ログ構法の処女作である「KAMAISHI の箱」は、東日本大震災に際して建設された仮設集会所でしたが、こちらも同時期に移設の必要が生じました。前者は移築後にも 1 階の開放的な表情を生み出し、再組立てを想定していた後者は 2 階の機能的な執務空間に位置付けられました。後者を支持する構造が新たに加わりながらも、両者の構造規範や表情が打ち消されず、むしろ空間が見事に解け合っていることが巧妙です。離れの「Capsule Box」にも縦ログ構法が採用されています。芳賀沼氏の精力的な復興支援活動に共鳴した人々によって本作品が設計されたことは、東北地方における東日本大震災以降の建築文化の発展を強く感じます。

【女川町立しおかぜ保育所】
いかに地域に開き、地域と連携できるかを考えて、近年のセキュリティーを重視した閉ざされた園舎から、地域に開かれた園舎として実現すべく、多くのワークショップ等を経て実現された園舎は、女川駅からの軸線となる「ふれあいの道」を軸に中央に園庭、それを囲むようにドーナツ型の園舎となっている。散歩などで訪れる地域住民が、ベンチに座りながら園庭や斜面を利用してつくられた「ぼうけんの庭」を自由に遊び廻る子どもたちを見守ることができる仕掛けは非常に評価できました。内部も二つの円を使って配置された教室は、遊戯室の天井が一番高く、角の 2 歳児室に向かって緩やかに傾斜していく天井と開口部などの操作により、見通しが良くなるように配慮がされ、円形のデメリットを解消し、連続性をもった空間となっている。中央のランチルームを起点に食育も含め、さまざまな地域との連携行事などが実現可能であり、そういった可能性を感じる魅力を持った園舎づくりが評価できました。

第 44 回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長	・坂口　大洋	仙台高等専門学校総合工学科建築デザインコース
選 考 委 員	・日比野　巧	日本大学工学部建築学科
	・有川　　智	東北工業大学建築学部建築学科
	・菊田　貴恒	東北工業大学建築学部建築学科
	・小地沢将之	宮城大学事業構想学群
	・長田　城治	郡山女子大学家政学部生活科学科
	・本郷　智大	山形県立産業技術短期大学校建築環境システム科
	・濱　　定史	山形大学工学部建築・デザイン学科
	・中山　武徳	（株）中山建築研究所
	・進藤　勝人	（株）八洲建築設計事務所
	・大野　　晋	東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻

以上

第 44 回東北建築賞(業績賞)選考報告

選考委員長 飛ヶ谷　潤一郎

「古建築を対象にした放射性炭素年代調査法の開発と応用」
　受賞者 中尾七重（山形大学理学部研究員）

　欧米開発の放射性炭素（14C）年代測定法を、日本の古建築年代調査に適用し、これまで数多くの歴史的建造物の建築年代判定に貢献したことは高く評価される。

　従来、この方法は木材最外年輪の形成年代を確率で示すのみにとどまるが、中尾氏は、建築年代を判定するために、自然科学的手法と建築史学的方法を組み合わせ、古建築に適した 14C 年代調査の手法を開発した。具体的には、調査試料の採取は、見え隠れや割れ傷み・風蝕を利用し、材の損傷を最小にする試料採取方法を考案した。こうして得られた部材年代と、建築史学の痕跡復原調査法による建物の変遷を照合し、建築年代を決定した。さらに他の調査法のデータや既往研究と比較照合し、建築年代の検証を行なった。

　このように、「ただ測る」のではなく、最終的に建築年代にたどり着くための部材選択と、「測定結果」に基づく「部材年代」判定と、他の方法のデータや古記録との照合から、真の「建築年代」を得る一連の手法を用いて、今日までに東北地方を中心に、古民家 62 件、町家 16 件、社寺等 29 件の年代調査を実施した。その結果、東北の民家の価値を高め、文化財活用や文化財指定・保存修理に寄与した。

　以上のように建築史学における 14C 調査研究手法を開発し、質の高い古建築 14C 年代調査を行い、古建築の調査保存活用に多大な貢献をしたことから、東北建築賞（業績賞）にふさわしいと判断した。

第 44 回東北建築賞(業績賞)選考報告

選考委員長 飛ヶ谷　潤一郎

「福島県における地域文化財の保存修理・復原の設計監理に関する長年の取り組み」
受賞者 溝井宇一（有限会社溝井宇一建築事務所代表取締役）

溝井宇一氏は、東北工業大学在学時に大内宿や福島県の古民家調査に携わり、以降も一貫して氏の出身地である福島県の歴史的建造物の調査・復原・保全に取り組んできた。

1987 年に建築事務所を設立したのちも、その姿勢は変わらず、担当した移築・保存修理・復原・活用事業に関する設計監理業務は福島県内で 17 件に及ぶ。その範囲は民家を中心として、旧広瀬座、旧石澤家茶室・八槻家神官、旧会津郡役所、旧渡部家住宅など多岐に及んでいる。

これらの大半は地方自治体にあって地域文化を継承するもので、単なる展示物にとどまらず、地域住民の集まりや文化活動の場として日常的に活用されており、今後の文化財保存修理手法・保全活用事業に対して新たな方向性を示すものである。

溝井氏の文化財建造物に対する基本姿勢は、ヘリテージの根本に流れる価値観の継承であり、伝統的構法を維持しつつ新たな文化的価値を高めていくという、一種のアーキテクチュラル・イノベーションの域にあるものと評価される。そのため、溝井氏が復元保全設計管理に携わった地域の文化財建造物は、地域の身近な歴史的建造物が急激に消滅しつつある現代社会にあって、ヘリテージ・マネージャーの手本とも目される活動領域として高く評価される。

以上より、本業積は東北建築賞（業績賞）に値すると認める。